

## 第 63 回建築士会全国大会広島大会(東京都浜松町)の報告



第 63 回建築士会全国大会「広島大会」は、新型コロナウイルス感染拡大への警戒から急遽東京に会場を移し、**11月20日(土)**に港区浜松町の**浜松町コンベンションホール**に於いて、Web 配信を主体に入場者数を大幅に制限して開催されました。秋田は次期開催県ということで幾分多めの参加が許され、淡路会長をはじめ、役員、受賞者、事務局、総勢12名での参加となりました。



大会当日、会場には「あきた大会」のPRブースが設けられ、早朝からPR活動のスタートです。幟を立ててポスターを貼り、テーマカラーであるオレンジ色のナマハゲジャンパーを着装してスタンバイ。配布資料はポスターをあしらったクリアファイルとリーフレット、観光パンフレットですが、例年と違い受付のない閑散とした中、手渡しや声出しは厳禁「ご自由にお持ちください」の貼紙とジェスチャーのみで大会をアピールするという前代未聞のPR活

動となりました。

大会は午前中の「セッション」から午後の「記念対談」までWeb中心で、全てをライブ配信するために各会場に配信用機材等が複数配備され、参加者よりもスタッフが多いセッション会場や、ソーシャルディスタンス配列の座席指定で事前登録が必要であるなど、次年度に向けて様々な課題を感じた各セッション、記念対談でした。



(なお、各セッションには秋田県建築士会の会員がオンライン参加し、発表とともに、さりげなく上手にあきた大会をアピールしてくれていました。)

セッション・記念対談の後は大会メインイベントの「式典」です。冒頭に広島県のオープニング動画が流れ、風光明媚な観光地や重厚な建造物など数多くの見所の紹介に、訪問できなかったことを改めて残念に思うとともに、「魅力ある広島に是非お越しく下さい。」と流された最後のテロップには、広島県建築士会の方々の万感の想いが感じられ、胸に込み上げてくるものがありました。



連合会会長表彰では、秋田中央建築士会の櫻庭会員が全国の受賞者を代表し、近角会長から表彰を受けるという凛々しく素敵なワンシーンもありました。

そして式典もいよいよ終盤。大会旗の引継ぎが始まり、広島県の井本会長から連合会の近角会長へ、そして秋田県の淡路会長へと大会旗は無事に引継がれましたが、否応なしに秋田開催が現実味を帯びてきた瞬間でした。



大会旗引継に続くあきた大会のPRは、青年委員と女性委員とで構成するデザイン部会が自主制作したあきたPR動画からスタート。青谷あすかさんの「うつくしい秋田」をBGMに県内の観光地や建築物などを紹介。清々しい気持ちと秋田の良さを感じさせてくれる素晴らしい映像と音楽でした。

続いて淡路会長以下役員6名が幟とポスターを手に登壇し、会長の秋田弁を交えた軽妙な招致あいさつから、会員参加型PR動画け・け・けの映像に会場の雰囲気も大いに和み、会場の全員が秋田に吸い込まれていくような、そんな心地よい感覚の中でPR活動は終了しました。



ポスターやスタッフジャンバーの斬新・大胆さやP R動画の暖かさなどに、大会参加者やスタッフから多くの賛辞を戴き、「あきた大会」に向けてとても良い感触を得ながら、今回のP R活動の成功を感じています。

一年延期の末に現地開催を断念せざるを得なかった広島県建築士会の方々の無念を晴らすべく、「あきた大会」には全国から数多くの建築士の皆さんに来県していただき、秋田のおいしい物をたくさん食べて建物を見て楽しんでほしいと願っています。

「け・け・けの秋田で、まずかだれ」ですね。



2021.11.20.